

ココちゃんが教えてくれた事



平成 25 年 9 月 22 日（日）午後 6 時 9 分、愛するココちゃんが天国に召されました。最近、元気がなくなってきて食欲もなくなってきたけど、ちょっとスマートになって良かったかな。なんて呑気な気持ちでいましたが、水分も摂らずにもどし出したため、点滴でもしてもらったら元気になるかなという軽い気持ちで、9 月 20 日（金）の朝に獣医さんに連れて行きました。診断は、末期の腎不全。いつ亡くなっ

ても不思議ではないという事で緊急入院となりましたが、病態はととても悪く、夕方には在宅で看取ることを勧められました。気持ちの整理がつかないまま、取りあえず出来る限りの治療をお願いしました。翌 21 日（土）の午後には少し脱水も回復し、何とか元気になってくれないかという気持ちと、冷静に検査データをみれば回復は困難かなという複雑な気持ちで途方に暮れておりました。病院に面会に行った後に獣医の先生に連れて行かれるココちゃんの悲しそうな目が瞼から離れませんでした。22 日（日）朝のココちゃんは、前日とは違って苦しそう、ICU に収容されて悲しそうにこちらをみてきます。ココちゃんが望んでいることは何かという事は明白で、獣医の先生の勧めもあり、自宅に連れて帰る事にしました。自宅に帰ってから天国に召されるまでわずか 6 時間。その間、ココちゃんは苦しい息をしながらもじっと家族全員を見渡し、何かを訴える目で見てきます。亡くなる直前には、必死で立ち上がって一人ずつを順番にみて最後のお別れをしています。ココちゃん。もういいよ。十分頑張った。ゆっくり休んでいいよ。最後は、パパに抱かれながらママの目をじっと見つめて天国に召されました。一緒にいた長女は号泣！前日に名古屋から時間をつくって会いに来た二女は、丁度東京での友達の結婚式に出席していましたが、LINE での連絡をみて号泣！友達の結婚式で感極まって、とても優しい人と思われたことでしょう。

我が家では、クリニックを開業した 1997 年にぴぴちゃんが来てから、2000 年にココちゃん、2005 年に萌華ちゃんと、トイプードル 3 姉妹がおりました。開業後 16 年間、娘二人が大学に進学して家から出ていなくなっても、常に一緒に暮らしてきたトイプードル 3 姉妹。昨年父親が亡くなった際には悲しくても涙は出てきませんでした。ココちゃんが助からないと悟った時には、人目を憚らず嗚咽を抑えることが出来ませんでした。天国に召された時はもちろん、その後数日は涙が出て止まらず、両目を腫らして診療しておりました。ココちゃんがいなくなって 10 日。少しずつ気持ちの整理が出来てくると同時に、ぴぴちゃん、萌華ちゃんの様子を冷静に観察していると、この子達 3 姉妹にもそれぞれ社会が出来ていたのだなと、つくづく感じられるようになってきました。ココちゃんに教えられた事を綴ってみたいと思います。

11 年前、ココちゃんが誕生して 1 年程経った頃、ペットについての自分の思いをホームページに載せていました。その時の文章を転記させていただきます。

動物好きは父親譲り？！

子どもの頃、父親が動物好きであったため、犬や猫をよくペットとして飼っていました。秋田犬などの大型犬が多く、怖くて家に入れず、犬が横を向くのを待ってすり抜けて玄関を駆け抜けていたため、単に番犬ぐらいにしか思っていないませんでした。猫には引っ掻かれた印象しかなく、仕返しに‘キャット空中三回転’が出来るか階段の上から落としたりし、さらに引っ掻かれるといった具合でした。室内犬としてポメラニアンを飼った事がありましたが、父親にはばかり懐き、そこらじゅうに抜け毛がくっつくため、‘汚い奴！’としか思っていないませんでした。

11 年前、県立志摩病院に勤務していた頃、雑種の子犬を知り合いから譲り受けて飼ったことがありましたが、当時 1 歳半の次女が怖がり、大泣きして家中の鍵を掛けまくって部屋に閉じこもってしまったため、1 週間で里帰りとなりました。

時は流れて5年前、ひよんな事で黒と白の2匹のトイプードルの赤ちゃんが我が家にやって来ました。まるでぬいぐるみのようであり、子ども達が可愛がっていましたが、部屋の中でおしっこやウンチをするは、うるさく鳴くは、寝ている時のみ可愛いぐらいでした。数か月がたち、少しずつ人も犬もお互いが慣れてきた頃、「どこかの子どもその後を追いかけて歩いていた。」という目撃情報を最後に、白い方が突然失踪してしまいました。その時の家族の悲しさといったら、まるで子どもが誘拐された気分であり、それまで私は鬱陶しく思っあまり可愛がってこなかった事が悔やまれ、急にペットに対する愛着が湧いてきました。犬は、可愛がってくれる人にはとても懐いてくるもので、家に帰った時には誰よりも早く出迎えてくれるは、食事の時にはおねだりするは、出かける時は悲しそうに眺めて鳴くは、夜になれば早く寝に行こうと誘いに来るは、遅くまで起きていると傍でじっと待っていているは、まるで小さい子どもの様です。もちろん寝る時も一緒。

1年前には新たにグレーのトイプードルも家族に加わりました。末っ子のためわがままでヤンチャですが、上の子とは違った可愛さがあります。人それぞれといいますが、犬それぞれの性格の違いがとても面白いです。

2匹の娘達をみていると、まるで2人の娘達が小さかった頃にいつも傍にくっついて懐いていた事を思い出します。よく、「子どもがいない人にとってはペットが子どものようだ」といいますが、「ペットは、子どもが一番可愛い時のままでいつまでもいてくれるような存在」だと思います。

最近になって思うことは、子どもの頃に父親がよく犬や猫を飼っていたのは、3人の息子があまり懐かなく口々に話もしなかったためかも知れません。単に動物好きだったのではなく、本当は子ども達が離れて行って寂しかったのかも知れません。

2002.3.1

その後、2005年には3姉妹の末っ子も加わり、一家団欒の日々が数年続きました。末っ子の萌華ちゃんは、事あるごとにココちゃんに対抗していましたが、長女のぴぴちゃんに対しては一目置いていたようで、ぴぴちゃんが高齢になり弱ってきてても、突っかかる事はありません。長女のぴぴちゃんは、白内障で目がほとんど見えず、最近では耳も聞こえなくなって完全に介護が必要な状態です。常に寝てばかりですが、寝顔は小さい子どもそのもの。ペットは、身体は衰えても精神は自分たちが面倒を見てやらなければいけない3~5歳のままなのです。ココちゃんは、一番の寂し



がり屋さんでした。常にママの後を追いかけて、「ストーカーココ！」と言われておりました。ママがお風呂に入っていればお風呂の外で待っている。トイレには一緒に入ってくる。外出して留守番している時は、じっと玄関で待っている。まさに「忠犬ココ！」。もっとも犬らしく振舞っておりました。二女はぴぴちゃんと萌華ちゃんは大丈夫でしたが、ココちゃんを抱っこすれば喘息発作が起るため、「アレルゲンココ！」の異名をもっておりました。ココちゃんがいるため、二女は実家に帰ってきててもウルトラマンほどではないにしても、2時間程で全身搔痒感に襲われて帰っていくといった具合でした。そういえば、ココちゃんが天国に召される前日に見舞いに来た時も、抱っこして喘息発作に襲われていました。末っ子の萌華ちゃんは、自由奔放、わがまま三昧！ぴぴちゃんには突っかからないけれども、ココちゃんには突っかかる。常に自分の方が偉いとばかりにやりたい放題。それを無視してココちゃんは過高く積まれた洗濯物の上に乗って昼寝したり、狭い箱や、カバンの中に入ってじっとママを見つめていました。

ココちゃんがいなくなってもぴぴちゃんはマイペース。でも、萌華ちゃんの様子がおかしい。ぴぴちゃんが寝てばかりなので、昼間は一人で留守番する事

になってしまい、とても寂しそう。やんちゃな萌華ちゃんが姿を消し、これまでココちゃんがいるところに押しつけて自分が行っていたのに、ココちゃんがよくいた場所にはいなくなり、生気が抜けてしまっています。私たちが悲しんでいる以上に、この子も悲しんでいるのかと思うと、とても可哀そうでなりません。人でも犬でも、やはり3人以上の社会を持つことの必要性を再認識いたしました。

入院した当日は、ココちゃんがいなくなってしまうことを受け入れることが出来ませんでした。しかし、2日間の治療が救命という結果には至りませんでした。この2日間の延命治療が家族にとっては愛するココちゃんの「死」を受け入れるためには必要な2日間であったと思われまます。「死」を覚悟した時には、ココちゃんと家族にとって何が一番大切で必要な事かは明白でした。たとえ数時間でも家族で最期の時間を共有出来たという事は、ココちゃんが私たちに与えてくれた貴重な時間であったと思われまます。

ココちゃんの火葬も終え、お世話になった獣医の先生にお礼に伺った際に思わず出た言葉が、『先生の2日間の延命治療のお蔭で、突然襲ってきた愛する家族の「死」を受け入れるための気持ちの整理が出来、最期を自宅で家族と共に看取ることが出来ました。今後の自分自身の診療においても、在宅医療を積極的に行っていかなければならない理由と意義を教えてくださいました。有難うございました。』。

ココちゃんが教えてくれた事を忘れずに、今後積極的に在宅医療にやりがいをもって取り組んでいきたいと思っております。

ココちゃんとの12年間、感謝の気持ちでいっぱいです。

追記：

11年前に書いた文章を改めて読み返してみると、

「ペットは、子どもが一番可愛い時のままでいつまでもいてくれるような存在」と書いていました。

今もその気持ちは変わりませんが、それに加えて思う事は、ペットがいなくなってこれ程悲しいのは、『ペットは、幾つになっても飼い主に対して全幅の信頼を持ってすべてに対して依存してくれている存在』だったからだと思いません。飼い主の方も、生活の大半をペットに依存している相思相愛の関係がずっと続いていたのですから。。。

ココちゃんへ

ココちゃんがいなくなってから1か月が経とうとしています。ココちゃんの事を思うと泣けてくるので、泣くのはお風呂の中だけにしようと決めています。ママは一人になるといつもそばにいたココちゃんの事を思い出して泣いています。ココちゃんと同じ誕生日のHさんも夜中に人知れず思い出して泣いている様です。Aさんはママの事を気遣ってあれから2回家に帰って来ました。カラータイマーが2時間を過ぎても鳴らない事が、ココちゃんがいなくなった事を再認識させて寂しいです。ぴぴちゃんは寒くなって風邪をひいています。獣医さんに早めにみてもらって元気になっています。萌華ちゃんは、最近ココちゃんがしていた様に前足をクロスさせて座ったり、ママを追いかけてストーカーをしています。時々萌華ちゃんに乗り移っていませんか？

天国から、ココちゃんが愛し愛された家族をいつまでも眺めていて下さいね。

いつかまた会える日まで。。。

